報道関係者各位

Press Release

2024年7月25日
株式会社エムダッシュクリエイティブ

15周年を迎えたHIGHLIGHT
過去と現在地が交わる1年9ヵ月ぶりの来日ライブレポート

HIGHLIGHT LIVE 2024
[LIGHTS GO ON, AGAIN] in JAPAN

今年デビュー15周年を迎えるK-POPグループHIGHLIGHTのアジアツアー日本公演、「HIGHLIGHT LIVE 2024 [LIGHTS GO ON, AGAIN] in JAPAN」が7月19日、20日の2日間、東京・Zepp Hanedaで開催された。前回の来日ライブから約1年9ヵ月ぶりとなった本公演のうち、本稿では初日の7月19日の模様をお届けする。

開演時刻、客席の照明が落ちると、この瞬間を待ちわびたたくさんのLIGHT（ファンの呼称）から歓声が上がる。メンバー4人がひとつの光の下に集結するオープニングVCRに期待が膨らむと、一転、場内には赤と青の照明やレーザーが飛び交い、鼓動のようなビートが鳴り響く中、真っ赤に染まったステージ上のLEDの背後から4人が登場。モノトーンのクラシカルな衣装に身を包み「Switch On」で重厚に本編をスタート。間髪入れず「PRIVACY」へと続き、「PAPER CUT」のダンスブレイクでは悲鳴に近い歓声が上がった。

３曲を終え「こんにちは！HIGHLIGHTです！」と日本語で挨拶すると会場は大歓声で応える。「今、みなさんメッチャ綺麗です！」（イ・ギグァン）、「今日は韓国語を使わないと決めて来ました！」（ソン・ドンウン）などと思い思いに挨拶をすると、ユン・ドゥジュンの「次の曲に行きましょうか？」の掛け声で「Feel Your Love」そして「Give You My All」へ。まるで春から夏へと季節が移りゆくような爽快感抜群な展開で、銀テープも舞い、会場のテンションを心地よく上げていった。「みんな一緒に！」の声からスタートした「CALLING YOU」では“CALLING YOU”を会場が合唱し、４人はステージからLIGHTとハートを作ったり視線を交わしたりと、Zeppという会場だからこその距離感を楽しんでいた。

続くMCでは、日本でオフの時間に何をしたらいいですか？とLIGHTからアイデアを募る。ギグァンが「みなさん一緒にSHIBUYA SKYに行きましょう！」と約束をしたところで、「얼굴 찌푸리지 말아요 (Plz Don't Be Sad)」で客席へサインボールを投げ込み会場はさらに熱く盛り上がる。そして最新曲「BODY」のスタイリッシュなビートが響くと、LIGHTの完璧なシンガロングと掛け声に応えるように4人も熱くパフォーマンスし、ここまでで一番の一体感を生んだのだった。

彼らの活動を見守ってきたファンの心情を代弁するようなVCRが映し出され、会場も静かにそれを見守っていると耳馴染みのあるイントロが聞こえ「Bad Girl」がスタート！ 彼らの15年の歩みが始まったまさにその曲、BEASTのデビュー曲だ。上下白い衣装に変わって登場した姿にも当時の姿がリンクする。会場のLIGHTたちも一瞬でBEAUTY（BEASTのファンの呼称）に戻ると一糸乱れぬ掛け声でレスポンス。「Shock (Japanese Ver.)」「Special」とBEASTの代表曲が続き会場の熱狂が冷めやらない中、ドゥジュンの掛け声に続いて「So BEAST！こんにちは、BEASTです！」（韓国語）の挨拶に会場は大歓声に包まれる。

まさに先日報道された、前所属事務所と“BEAST”の商標権使用の合意を終えたという事実を実感する瞬間だった。「BEASTとして、そしてHIGHLIGHTとしてずっと一緒にいてくださって本当にありがとうございます」（ドンウン）と、ファンへの感謝のしるし（？）に夏を乗り切るノウハウを伝授するMCで盛り上がると、雰囲気をガラリと変え「Shadow」、ヤン・ヨソプの情感溢れるボーカルソロから「Good Luck」へと続き、そして「舍 (Breath)」の圧倒的なパフォーマンスで会場を魅了した。ヨソプは「歌いながら日本で活動した時のことが頭に浮かびました。本当にいろんな気持ちが浮かんできました」と、ここまでのBEAST楽曲セクションを振り返った。スタンドマイクに持ち替えた4人は、「雨が降る日には (비가 오는 날엔 (JPN ver.))」「Ribbon」を表現力豊かで伸びやかなボーカルで会場に届けると、続いてストリングスが印象的なバラードアレンジの「Fiction (JPN ver.)」をエモーショナルに歌い上げた。この日披露したBEAST楽曲のどれもが15年間歩み続けてきた今の彼らだからこその表現へと進化していた。そこに“BEAST”は決して終わった過去ではなく、彼らと共にずっと生き続けているのだということを強く感じた。

VCRを挟むと、LEDの背後から夕陽を浴びるようにオレンジ色のライトに照らさて、デニムの衣装の4人が登場。ここからはふたたびHIGHLIGHTの楽曲へ。「불어온다 (NOT THE END)」の心地よいビートに会場が体を揺らし、紙吹雪が舞う光景は多幸感に溢れていた。公演も終盤。「暑い日にたくさんの方がいらして、会場を輝かせてくださってありがとうございます。こんな風にずっと応援してくださったら、HIGHLIGHTはずっと歌い続けられると思います」（ヨソプ）。「Zeppが久しぶりで、オープニングの時はこの距離に慣れていなかったんですが、慣れてきました。みなさん膝とか腰とか大丈夫ですか？」とギグァンはスタンディングエリアを気遣う。「『雨が降る日には』でペンライトを点滅させるのは日本のLIGHTだけなので、久しぶりにその光景を見て、『ああ！これだった！』って思い出しました。日本のLIGHTのみなさんがそばにいてくれるなと感じました」（ドンウン）。ドゥジュンは「あまり頻繁に会えなくて申し訳なく思っています。（日本語で）そろそろ終わりだ。心が痛い……寂しい！」と寂しさをにじませながら全員で最後の挨拶をすると、「In My Head」へ。残りわずかの時間を惜しむように、4人は会場の隅々までLIGHTにやさしく微笑みかけ、手を振ったりとコミュニケーションし、「Don't Leave」で会場が手拍子に包まれひとつになったところで本編は終了。4人は「ありがとうございました！」と手を振りながらステージを後にしたのだった。

アンコールでステージに登場した4人は、ツアーＴシャツとデニムパンツ、そしてキュートなフワフワの帽子といういでたちで「Beautiful」「V.I.U (Very Important You)」とBEAST楽曲を披露。カラーテープが舞う中、4人も会場も一緒になって歌い飛び跳ね、この瞬間を全身で楽しみながら大団円を迎えた。と思いきや、鳴り止まないアンコールの声に応え4人が再びステージに登場すると、ダブルアンコールでHIGHLIGHT最新ミニアルバム収録の「How to Love」に続き、BEAST楽曲の「How to Love」を披露。曲の終盤、ヨソプが溢れそうな涙をこらえ、その姿にドゥジュンが手を差し伸べるという場面に、この日会場に集まったLIGHTたちは胸を熱くした。最後は「以上、ハイライトでした！ありがとうございます！」の挨拶で締めくくり4人が姿を消すと、会場からはあたたかな拍手が湧き起こった。

15年間、どんな過酷な状況でも自分たちの光を絶やすことなく灯し続けたHIGHLIGHTが、BEASTという光も取り戻した今、16年目以降の活動がさらに力強く輝き、彼らのさらなる“ハイライト”が待っているのではないかと感じさせる公演だった。

ライター：中村萌
カメラマン：宮田浩史
写真クレジット：©Around US ENTERTAINMENT

PROFILE

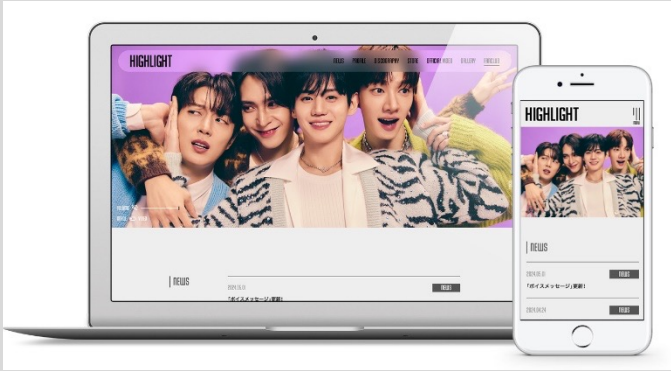
HIGHLIGHT（ハイライト）

©Around US ENTERTAINMENT

2009年BEASTとしてデビューしたメンバーのユン・ドゥジュン、ヤン・ヨソプ、イ・ギグァン、ソン・ドンウンで構成された韓国ボーイズグループ。
2017年1月、グループ名をBEASTから“HIGHLIGHT”に変更し、2017年3月に再デビューアルバム＜CAN YOU FEEL IT?＞を発売。
グループ活動だけにとどまらず、ソロでの音楽活動や俳優活動など、幅広く活躍している。
今年2024年3月にHIGHLIGHT THE 5th MINI ALBUM [Switch On]を発売。韓国国内外の音楽チャートを賑わせ、タイトル曲「BODY」は韓国の音楽番組で1位を獲得。
また、5月に韓国で3日間開催された単独コンサートは全席完売するなど、今年デビュー15周年を迎える彼らの人気は今でも変わらない。

HIGHLIGHT JAPAN OFFICIAL FANCLUB

https://www.highlight-fc.jp/



■会費
入会金：0円
年会費：6,600円（税込）

■会員特典
・デジタル会員証の発行
・会員登録特典のお届け
・更新特典のお届け
・会員限定ウェブコンテンツの閲覧
・会員限定グッズの販売
・各種コンサート・イベントチケット等の会員優先申し込みのご案内
・会員限定メールマガジン配信

本リリースに関するお問合せ
株式会社エムダッシュクリエイティブ
担当：中野　（ mail：press@m-dash-creative.jp ）